



社長レター

■新たなスタンダードを生み出す 5：心みつめる

すっかり秋めいてまいりました。みなさんはいかがお過ごしでしょうか。さて、先月号では『心みつめる』というお話をさせていただきました。このことについて今月も考えてみたいと思います。

「私たちの目の前には常に『現実』がある」と言えば、きっと皆さんは「そんなことは当たり前」と思われるかと思います。では、「目の前の現実を私たちは見ているか」と問われたら、みなさんはどう思われるでしょうか。

「見ているに決まっている」と思われる方もいらっしゃると思いますが、一方

では「見ているようで見ていない」と思われる方もいらっしゃるかと思います。

脳科学的な見地に立てば「真の現実」を見ている人はいないのです。全ては脳に届いた情報を基に「構成された現実」を見ているのであって、真の現実を写し取った現実らしき像を私たちは「現実」だと思っているのです。

ややこしい話になってしまいましたが、例えば、夜空を見上げ星々の輝きを目にする時、実際にはそれらの星々から届いた光はずっと過去に発せられたものであり、中には既に存在していない星もあるかもしれない、といったことを考えてみるとわかりやすいかもしれません。

真の現実としては存在していなくても、私たちの心の中では現実として間違いなく存在するという事は多々あるのです。星々に関する現実についてであれば、日常生活に大きな影響はないかもしれませんが、しかし、もっと身近な現実に関することとなるとどうでしょうか。AさんとBさんが同じ現実を見ているようでいて、心の中では全く違うように現実を見て、しかも違うように見ていることに気がつかないといったことはよくあります。『心みつめる』とは、現実を自分がどのように捉えているか、捉え方のクセや傾向を理解し、現実の真の姿に迫ろうとする大切な努力なのだと思います。

代表取締役社長 八木 陽一郎

